

平成 30 年度 併設校 AO 入試 総合考査 問題用紙【スポーツ文化学部】

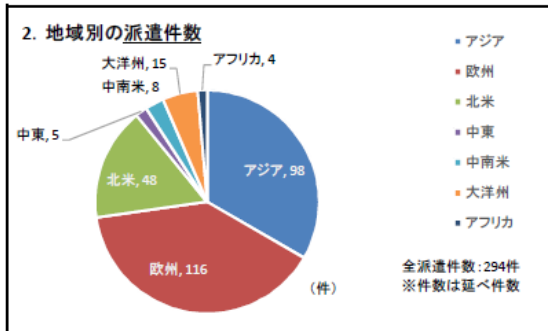
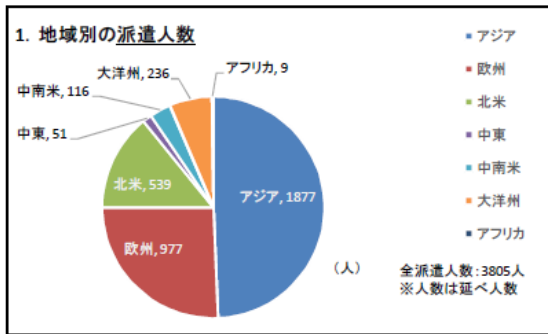
試験時間：60 分

2020 年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて様々な取り組みが進められています。資料は平成 27 年度の「スポーツ国際交流のために行った派遣状況」について示したものであるが、これをもとに以下の問いに答えなさい。

問 1. ここでの「スポーツ交流」とは①スポーツを通じた諸外国との交流、②海外強化合宿、③諸外国との国際親善・交流試合・強化試合・合同合宿等、④指導者・審判員に対する技術講習・研修、⑤指導者の派遣、を指しているが、派遣地域と競技種目の観点からあなたの考える事を述べなさい。

問 2. 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、今後の国際交流の在り方についてあなたの考えを述べなさい。

資料：スポーツ国際交流のために行った派遣



競技名	1	2	3	その他
①バレーボール(367)	韓国(137)	イタリア(44)	スイス(29) ブラジル(29)	その他(128)
②陸上競技(289)	アメリカ(80)	台湾・チャイニーズ タイペイ(65)	韓国(53)	その他(91)
③ホッケー(232)	オーストラリア(92)	アメリカ(25)	イギリス(24) ベルギー(24) 中国(24)	その他(43)
④体操(203)	ロシア(103)	韓国(29)	アメリカ(25)	その他(46)
⑤水泳(197)	アメリカ(62)	オーストラリア(34)	ハンガリー(32)	その他(69)
⑥バスケットボール(194)	韓国(87)	オーストラリア(22)	オーストリア(19) チェコ(19) 中国(19)	その他(18)
⑦ソフトボール(187)	韓国(54)	台湾・チャイニーズ タイペイ(47)	オーストラリア(29)	その他(57)
⑧ウエイトリフティング(178)	韓国(169)	アメリカ(8)	ウクライナ(1)	
⑨アイスホッケー(162)	ロシア(80)	ラトビア(28)	カナダ(27) 韓国(27)	
⑩フェンシング(148)	韓国(30)	フランス(28)	香港(23)	その他(67)

※カッコ()の中の数字は派遣人数

※「各競技」には、「日本体育協会交流事業」を含む
 ただし、日本体育協会交流事業のうち、「日独スポーツ少年団同時交流事業」(派遣人数70名)及び「日独スポーツ少年団指導者交流事業」(派遣人数8名)は特定の競技の交流事業ではなく、競技別に区分できないため、カウントしていない
 ※人数は延べ人数
 ※「その他」は派遣国上位3か国以外をカウント

出典：「平成 27 年度国際交流状況等調査」(結果)、スポーツ庁、平成 29 年 2 月